



# きじむんの どう〜ちゅばにい〜 第5回

## 頭痛を治す！ 琉球の天孫氏の下女の化身 びたん

キーワード：『琉球奇譚』 妖怪

ハイサーイ！ キジムン ヤイビーン。ミードゥーサタシガ ガンジュー ヤティー。 (久しぶりだけど元気?)。

さて。あなたは頭痛に悩んでいませんか？ いい話が古文書にあるよ！

米山子作『琉球奇譚(りゅうきゅうきたん)』(1832年、江戸)(ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館所蔵/阪巻・宝玲文庫)には、「びたん」という琉球の妖怪が出ています。

沖縄の竹富島の海に生息。琉球の初の王統である天孫氏(てんそんし)に仕えていた召使いの女性ピンタラが、海に入ったらこの魚になりました。

「びたん」は、顔は龍のように角とヒゲがあり、しっぽは二つに分かれていて、背中にはうろこがびっしりと生えています。

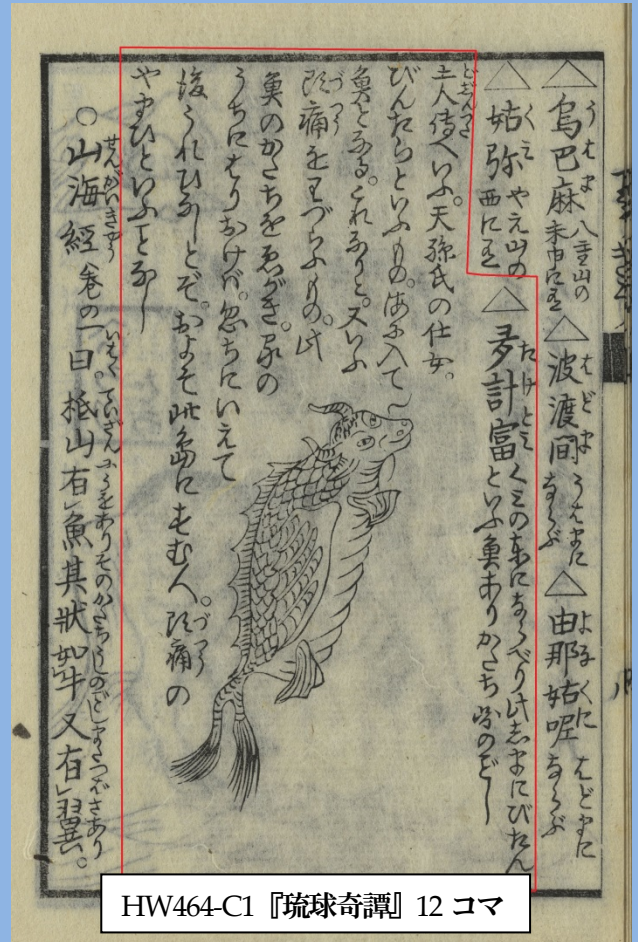
頭痛になったら、この魚の絵を家に掛けておくとすぐに治る！という御利益つき。さすが天孫氏の関係者は下女までも聖なるパワーを持っているんですね。

その御利益を証明するかのように、竹富島の住民は皆頭痛が軽くてすむ、とのことでした。

琉球では、病気になった時に役立つ本が沢山あります。

中国史上最高の本草学の古文書『本草綱目』(1596年)には植物の薬効について詳しいです。

琉球国王の食事や薬膳についての渡嘉敷通寛『御膳本草』(1832年、琉球)もお勧めです。



HW464-C1 『琉球奇譚』 12 コマ

でもたまに、生きている人間の太ももの肉をえぐり取って煎じて飲めば、ハンセン病(当時は不治の病)が治る！とか、人間の頭蓋骨のてっぺんを粉にしたら不治の病もすっきり！などあります。

江戸でこれを実行して逮捕された人々もいました。

頭痛持ちの方は、ぜひ一度、この魚の絵を家に貼って、琉球のおまじないの効果を体感してみてください。

そして、その結果や感想は、きじむんにお聞かせください！

竹富島で釣りやダイビングをする方は、この魚を見かけるかも。要チェックです！

この古文書にはほかにもいろんな琉球の妖怪の絵が出ています。

気になる方は附属図書館ホームページの「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」をチェック！  
(ココ→)



(AS)

参考文献：米山子『琉球奇譚』(1832年、江戸)ハワイ大学マノア校ハミルトン図書館/阪巻・宝玲文庫所蔵